

# 巻 頭 言

社会医療法人きつこう会 理事長 小川 嘉 誉

2019年も終わろうとしています。今年は、何か特別な年であったような気がしています。5月1日には、年号が平成から令和に変わり、10月12日にはきつこう会創立70周年記念式典、12月7日には、70周年記念学術大会を終えました。

70年のきつこう会の歴史は、戦後の日本の刻々と変化するニーズや課題への対応の歴史そのものであったと言えます。

私が、総合病院の院長に就任してから32年、理事長に就任してから24年になりますが、皆様とともに、多根 要之助先代理事長が描いた理想の頂点を目指して、山を越え、谷を渡り、現在やっと少し安定した中間点に達したかなというのが今の心境です。当法人の医療の質、経営の質は、内・外部からある程度評価されるようになり、KHS（きつこう会ヘルスケアシステム）としての行動も世間から認められつつあります。

さて、問題はこれからであります。すでに2025年、2040年問題に対応するために行動を始めつつありますが、70周年を迎えて改めて決意すべきと思います。

われわれをとりまく社会・経済環境は、これまで以上に変化していくと思われ、“VUCA”（Volatility—不安定で変化が激しい、Uncertainty—不確実性が高い、Complexity—複雑、Ambiguity—曖昧模糊）の時代を迎えていると言われていています。そして、そのような環境の中、「あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、年齢、性別、地域といったさまざまな違いを乗り越え、いきいきと快適に暮らすことのできる社会」を目標として行動しなければなりません。

理想の頂点は、はるか遠くにあるように思いますが、当法人は、「社会的価値のある医療、保健、福祉を多職種協働で」をモットーとして行動していく所存です。

情報はありあまるほどあります。その多くの情報をデータ化し、分析して自ら考え、可能性にチャレンジし、その結果から学ぶ姿勢が必要です。

きつこう会が現在の姿になるのに70年かかりました。一朝一夕に物事は改革できません。本誌は、一法人の冊子ですが、多職種の人々が、自分の業績、考え方などを文書にして、意見を述べ、意見を交換することが自法人のみならず、さらに地域包括ケアの発展に繋がることを願っています。

令和元年12月18日 記